



# 第3期 地理空間情報活用推進基本計画について

企画部 地理空間情報企画室長  
石関 隆幸

## 地理空間情報活用推進基本法（平成19年法律第63号）

### 第九条（地理空間情報活用推進基本計画の策定等）

**政府は**、地理空間情報の活用の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、**地理空間情報の活用に関する基本的な計画**（地理空間情報活用推進基本計画）**を策定しなければならない**

#### 2 基本計画は、以下の事項について定める

- 一 地理空間情報の活用の推進に関する施策についての**基本的な方針**
- 二 **地理情報システムに係る施策**に関する事項
- 三 **衛星測位に係る施策**に関する事項
- 四 その他、施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

平成20年：基本計画 閣議決定（計画期間：平成20年度～23年度）

平成24年：第2期基本計画（計画期間：平成24年度～28年度）

**平成29年：第3期基本計画（計画期間：平成29年度～33年度）**

**平成29年3月24日閣議決定**

# 地理空間情報活用に関する政府の体制

## ○地理空間情報活用推進会議

- 議長 内閣官房副長官（政務及び事務）
- 議長代理 内閣官房副長官補
- 副議長 内閣官房、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省の各担当局長級
- 構成員 その他の関係省庁の局長級（国土交通省国土地理院長）

## ○地理空間情報活用推進会議幹事会

- 議長 内閣官房内閣審議官
- 議長代理 内閣官房内閣参事官
- 副議長 内閣官房、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省の各担当課長級
- 構成員 その他関係省庁課長級（国土交通省国土地理院企画部長）

### ○地理情報システム ワーキンググループ

### ○衛星測位 ワーキンググループ

### ○OG空間プロジェクト推進 ワーキンググループ

- 個人情報保護・知的財産に関する  
検討チーム
- 国の安全に関する検討チーム
- 基盤地図情報整備・更新に関する  
検討チーム

- OG空間情報センターの利活用推進チーム
- 防災システム高度化推進チーム
- IT農林水産業推進チーム
- 地域・中小企業活性化推進チーム
- 海外展開推進チーム



## 地理空間情報産学官連携協議会

産業界

学界

## 地理空間情報活用のための環境を整備

### 第1期基本計画（H20.4–H24.3）

- ・ **基盤地図情報**の整備
- ・ **準天頂衛星**初号機「みちびき」の開発、打上げ
- ・ 関係主体の推進体制の整備と連携の強化  
→ 産学官協議会の設置等

### 第2期基本計画（H24.4–H29.3）

- ・ 東日本大震災（H23）を教訓に、防災・減災の取組を強化
- ・ 地理空間情報のハブとなる「**G空間情報センター**」の構築
- ・ 「みちびき」による位置情報の測位に関する実証実験が進捗

# 基盤地図情報

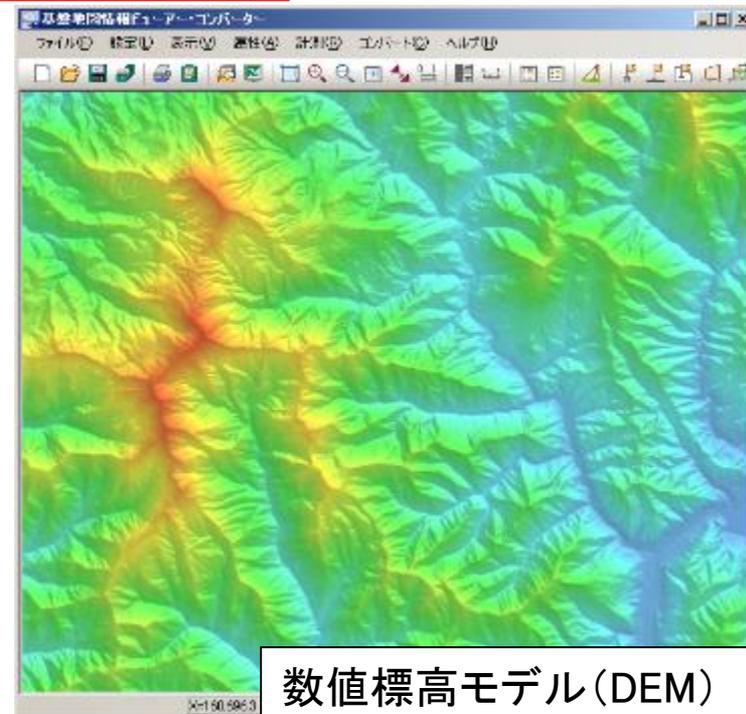
- デジタル地図上における位置を定めるための基準
- 誰でも、いつでも無償でダウンロードして利用可能
- 縮尺レベルは2500(都市計画区域)、25000(全国)
- 平成23年度に概成

## 基本項目



行政区画の境界線

市町村の町若しくは字の境界線



基盤地図情報のダウンロードはこちら

<http://www.gsi.go.jp/kiban/>

# 準天頂衛星システム

- GPSの補完(衛星数増加による測位精度の向上)
- GPSの補強(電子基準点を活用してcm級精度を実現)
- メッセージ機能(安否確認、災害・危機管理通報(災危通報))  
を実現。2018年度に4機体制、2023年度に7機体制予定。

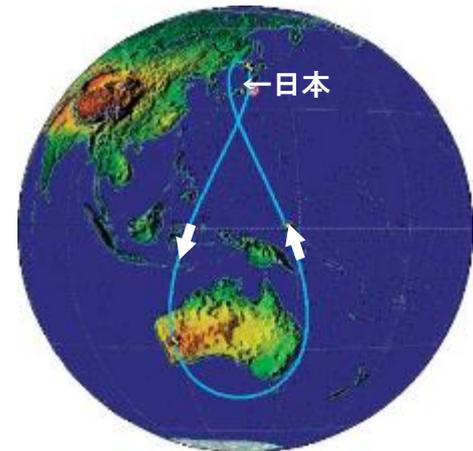
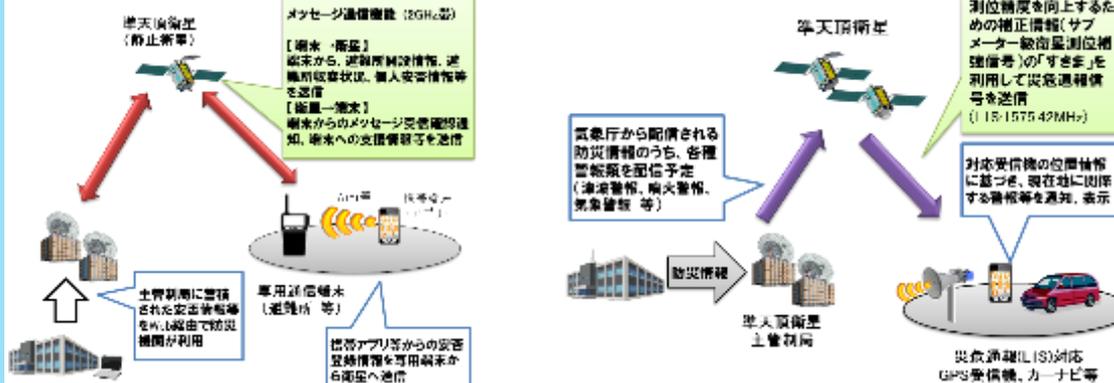
## ①GPSの補完



## ②GPSの補強

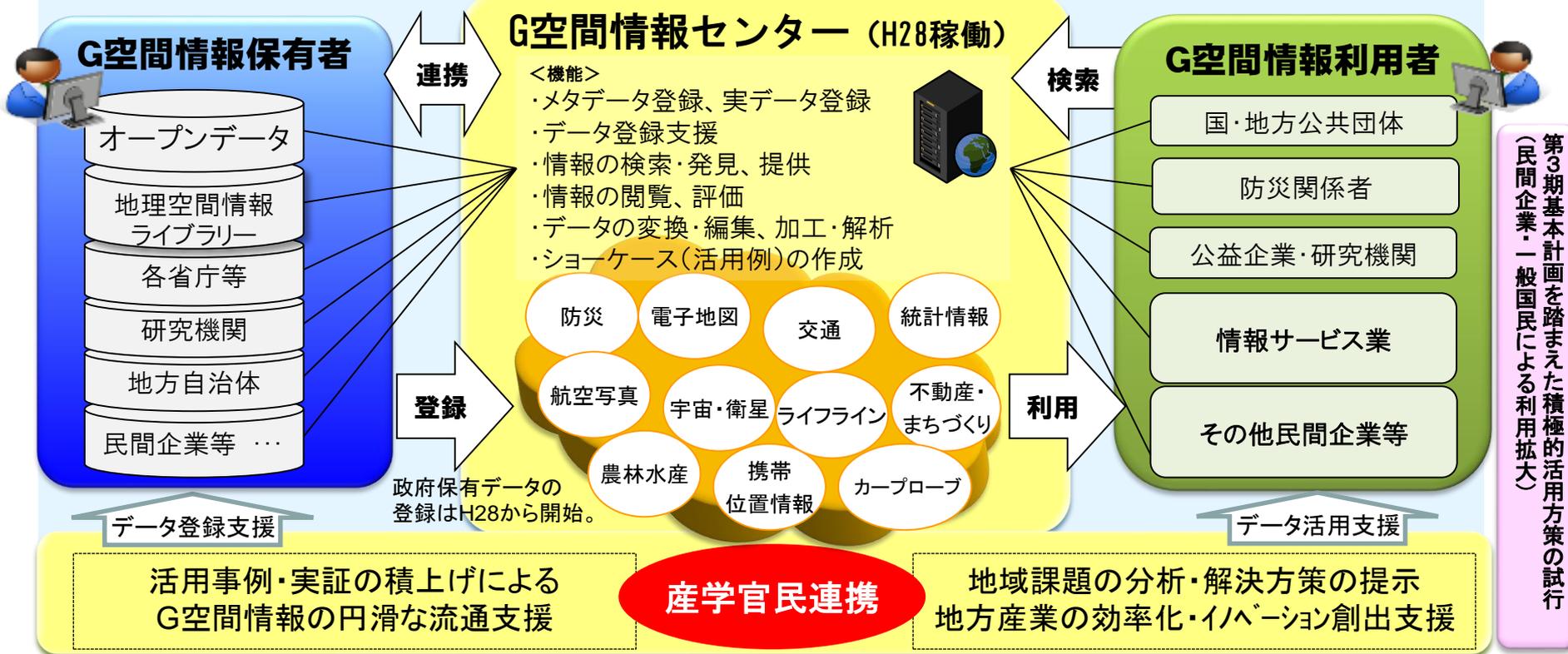


## ③メッセージ機能



準天頂軌道衛星の直下軌跡

- 各主体が保有する地理空間情報を**集約、解析・加工・変換、提供**
- 利用者が地理空間情報を**ワンストップ**で**検索・閲覧し、情報入手・利用**できる仕組み (URL: [https://www.geospatial.jp/gp\\_front/](https://www.geospatial.jp/gp_front/))



第3期基本計画を踏まえた積極的活用方策の試行  
(民間企業・一般国民による利用拡大)

## 安全・安心の向上、生産性の向上

### <防災>



- G空間情報センターを介し災害時のG空間情報の利活用を支援
- 災害時に備えたG空間情報の活用を計画・準備

### <まちづくり・不動産>

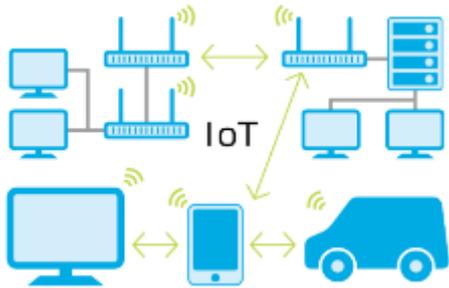


- G空間情報センターを介し地価、人口、都市計画規制や時間帯毎の人流のデータ等を活用することにより、不動産取引、出店計画等を支援。
- etc.

# 地理空間情報を取り巻く社会情勢の変化

## 新しい価値が創造される環境

モバイル端末の小型化・  
更なる普及

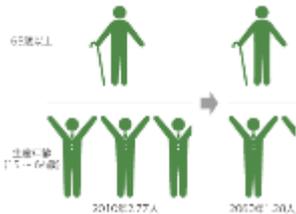


IoT



ビッグデータ

## 対応すべき課題



少子高齢化



インフラ老朽化



災害リスク拡大



国際競争激化

## 高精度な測位情報、位置に関するビッグデータを解析・加工

空港

ターミナル駅



シームレス移動



災害移動支援

・安全・快適な社会  
・革新的産業創出



自動走行



ピンポイント物流

基準・ルール整備

セキュリティ対策

環境整備

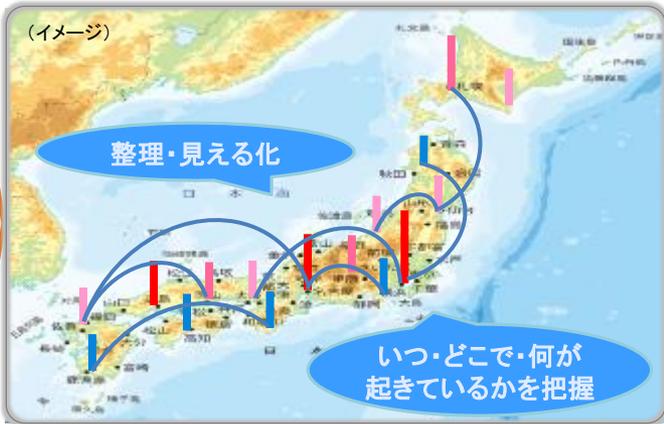


# G空間がつくる未来

- 情報を位置と時間で整理・見える化
- 「いつ、どこで、何が起きているか」を正確に把握
- 最適な意思決定、制御・連携による、新しいサービスや産業の創出

デジタル情報をIoTにより集約  
(ビッグデータ化)

衛星、車両、  
携帯端末、センサ等



意思決定や制御・連携の  
最適化を実現

市民生活、ビジネス、  
自動走行から災害対応まで

## G空間情報活用の実績と将来

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本独自の測位基盤整備</li> <li>● 基盤地図の整備</li> <li>● 産業創出支援等                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 地理空間情報活用推進基本法</li> <li>- 準天頂衛星「みちびき」の開発・実験・実証</li> <li>- 宇宙基本法</li> <li>- 海洋基本法</li> </ul> </li> </ul>	<p>● 2016年～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 測位基盤の完成</li> <li>● G空間情報によるIoT・AIの社会実装加速                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 官民データ利活用推進基本法</li> <li>- 準天頂衛星4機体制へ</li> </ul> </li> </ul>	<p>● 2020年～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リアルタイムG空間情報の活用による第4次産業革命の実現                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 東京オリパラ2020</li> <li>- 準天頂衛星7機体制</li> </ul> </li> </ul>
--	---	--



## 使命 = Mission

一人一人が「成長」と「幸せ」を実感できる、新しい社会を実現する。

－ 第4次産業革命のフロントランナー －

## 目標 = Vision

IoT/ビッグデータ/AIなど第4次産業革命の鍵となる、「いつ・どこで・何が・どのように」という地理空間情報を高度に活用した世界最高水準の「G空間社会」を実現。

- 国土を守り、一人一人の命を救う  
多発する地震、台風などの災害にも対応できる、強くしなやかな社会
- 新時代の交通、物流システムを実現する  
誰もが安全・快適に移動し、多様なニーズに合わせて輸送できる社会
- 多様で豊かな暮らしをつくる  
人口減少・高齢社会にあっても、人々が活力をもって暮らせる優しい社会
- 地方創生を加速する  
生産性を向上させ、地域の魅力・創造を引き出し、地方経済が活性化する社会
- G空間社会を世界に拡げる  
我が国の強みを活かした、高い国際競争力をもった産業を生み出す社会

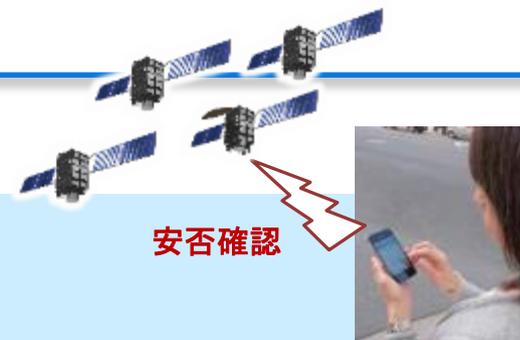


## 手段 = Approach

- 産学官民の協調による共通基盤の構築
- 誰もが参加し、活用できる環境の整備
- 自由な競争による新たな成長の実現

### 準天頂衛星4機体制による高精度測位サービスの提供

- 2018年度に準天頂衛星システム4機体制を確立
- 全国で高精度なリアルタイムの位置と時刻を提供
- 双方向のメッセージ機能を災害発生後の安否確認などに活用



### G空間情報センターを中核とした共通の情報基盤の構築

- 2018年度にG空間情報センターを本格稼働
- 誰もが容易かつ円滑に検索・入手・利用できる仕組みを構築
- G空間情報の循環システムを形成



### 東京2020オリパラ大会をG空間社会のショーケースに

- G空間情報を基幹的インフラとして展開
- 2020年の東京オリパラ大会で、先進的な取組を提示

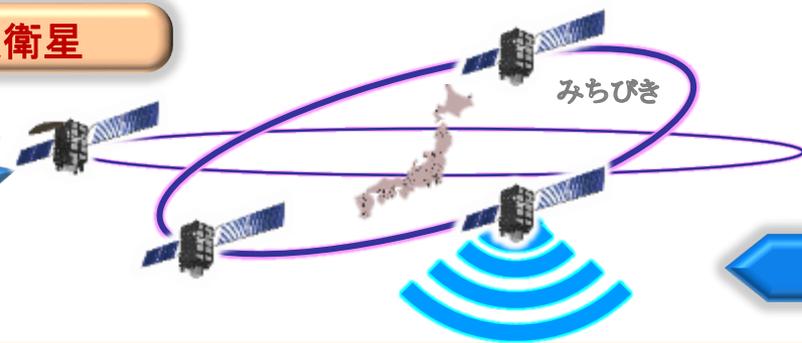




# G空間社会のイメージ

## 準天頂衛星

安否情報など  
双方向通信の活用



高精度でリアルタイムの位置と時刻

### 国土を守り、命を救う

### 新時代の交通、物流システム

### 多様で豊かな暮らし

### 地方創生を加速

### 世界に広げる



防災対策システム



離島への物流網



ストレスフリー環境



i-Construction

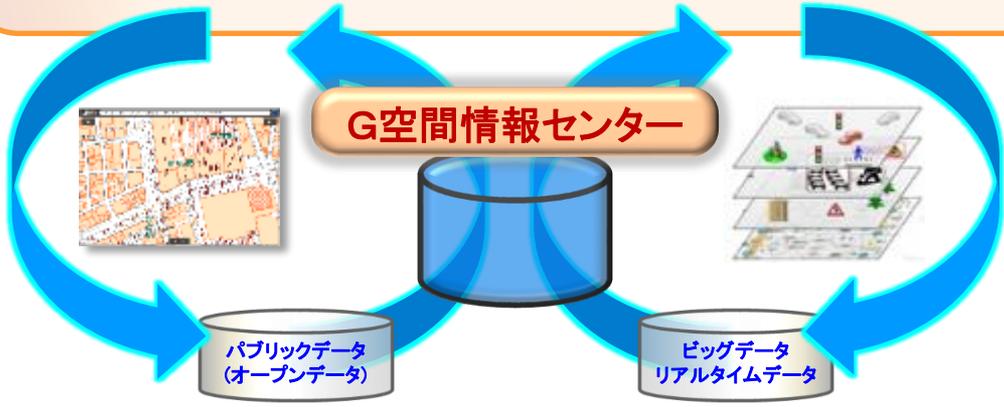
IT農業



技術・サービスの海外展開

G空間関連市場規模は2020年度には  
約60兆円に拡大（2012年度は約20兆円）  
出典：情報通信白書（2013年版）

## G空間情報センター



パブリックデータ  
(オープンデータ)

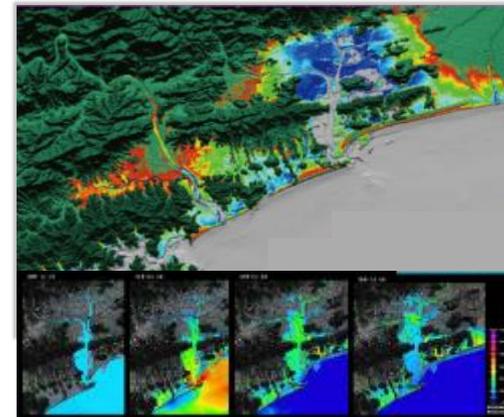
ビッグデータ  
リアルタイムデータ

高付加価値のG空間情報の循環システムの形成

- 重点的に取り組むべき施策を13のシンボルプロジェクトとして選定
- 重要業績評価指標(KPI)を含めた工程表を策定し、計画的推進を図る

## Vision1: 国土を守り、一人一人の命を救う

- 準天頂衛星システムを活用した避難所等における防災機能の強化
- 津波浸水被害推計システムの運用
- G空間防災システムの普及の促進



## Vision2: 新時代の交通、物流システムを実現する

- 高度な自動走行システムの開発・普及の促進
- 準天頂衛星を活用した無人航空機物流事業の促進

## Vision3: 多様で豊かな暮らしをつくる

- 屋内空間における高精度測位環境づくりの促進
- G空間情報センターを活用した大規模イベント来場者等の移動支援

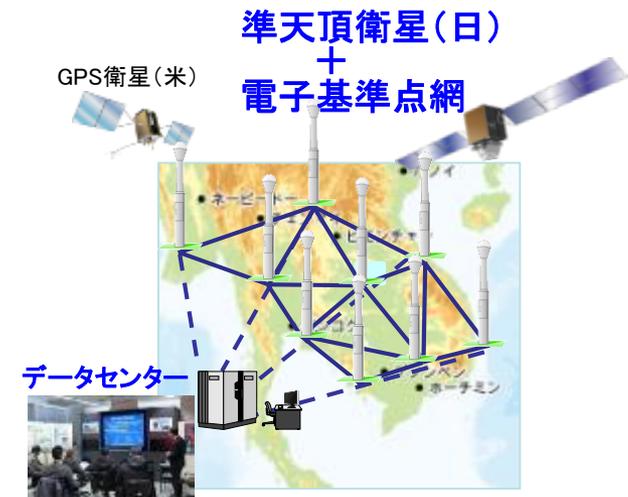
## Vision4: 地方創生を加速する

- 農業機械の自動走行技術等の開発・普及の促進
- 地理空間情報とICTを活用した林業の成長産業化の促進
- i-Constructionの推進による3次元データの利活用の促進
- 中小企業・小規模事業者の研究開発・サービスモデル開発の推進



## Vision5: G空間社会を世界に広げる

- 電子基準点網及び準天頂衛星システムを活用した高精度測位サービスの海外展開
- 地理空間情報の循環システムの形成



# 国土地理院の主な施策

## 地理空間情報を高度に活用するための基盤と環境の整備

- ・地理空間情報の整備・流通・活用のための基準・規程等の整備



- ・i-Construction普及に向けた基準類の整備

- ・電子基準点網の高度化・維持管理



- ・協調領域となる地理空間情報の活用推進

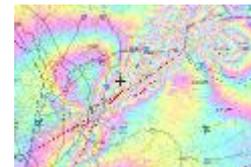


- ・基盤地図情報、電子国土基本図の更新
- ・地理院地図による提供



## 暮らしの中で実感できる地理空間情報の活用

- ・地理空間情報を活用した災害対応力の強化



- ・測量関連業務に携わる人材の育成



## 地理空間情報の海外展開と国際貢献

- ・電子基準点網及び準天頂衛星システムを活用した高精度測位サービスの海外展開



- 国土の豊かな恵みを次の世代に引き継いでいくため、**地理教育**が急務
- 高等学校における「地理総合」の必修化に向け、**教員の支援**が急務

### 1. 教育現場の支援

- 教育支援ポータル「**地理教育の工具箱**」の作成  
<http://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/>
- 教科書会社への説明会
- 学会等との連携による地理空間情報リテラシー教育のあり方検討  
 など

### 2. 児童生徒と保護者へのアプローチ

- インターンシップ、サマースクール
- **学校へ行こうプロジェクト**
- 児童生徒地図作品展  
 など

### 3. 防災教育支援の強化

- 国土交通省防災課と連携、地方測量部と地方整備局、気象台による**チーム国交省**での取組
- **ハザードマップポータル**、**防災地理情報**提供の充実

### 4. 若年層に親しんでもらうために

- 親しみやすいメディアや若年層に魅力的な活動の推進(**遊びからの地理**)
- 自発的な活動をつなぐ「**ひろば**」づくり

## 電子基準点を設置してある学校は全国で約600校

- 国土の位置を正確に測るための基盤である電子基準点の多くは学校敷地内に設置されている。
- 電子基準点のメンテナンスやその他の仕事で学校を訪問する機会がある。



### 出前授業の開催

電子基準点の役割、測量・地理空間情報の大切さを出前授業で児童・生徒に伝えます。



平成28年5月下旬～11月下旬で  
11校の小中学校 約600名  
今後も継続、高等学校も実施予定。

- G空間社会の実現には、基盤的な地図情報が必要不可欠
- 国土地理院では、基本計画を着実に推進するためにも、測量行政に一層励んでいきます
- ひきつづき、**みなさまのご協力をよろしくお願いします**

(ご参考)

○ 地理空間情報活用推進会議

<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/sokuitiri/>

○ 地理空間情報活用推進基本計画(第3期)本文

[http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/sokuitiri/290324/170324\\_masterplan.pdf](http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/sokuitiri/290324/170324_masterplan.pdf)

○ 基盤地図情報ダウンロードページ

<http://www.gsi.go.jp/kiban/>

○ 地理教育の道具箱

<http://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/>